

1. 日本側参加研究者の体制

①採択年度 (和暦) (西暦)	平成30 2018	年度	②採択期間 (通常A型は5年以内 B型は3年以内)	5	年間 (1年未満は 切上げ)	③事業の型 (AまたはBを記入)	A	型
④日本側拠点機関名 (和文)	神戸大学							
⑤研究交流課題名 (和文)	階層横断的グリア脳科学研究のための国際コンソーシアム拠点形成							
⑥課題番号	JPJSCCA20180008							
⑦コーディネーター所属部局名・ 職名・氏名 (和文)	次世代光散乱イメージング科学研究センター・特命教授・和氣弘明							
⑧日本側協力機関名 (和文) (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)								
東京大学								
山梨大学								
慶応義塾大学								
国立研究開発法人理化学研究所								
東北大学								
国立長寿医療研究センター								
名古屋大学								
お茶の水女子大学								
大阪大学								
⑨参加研究者数内訳 (様式12 参加研究者リストに 準じてください。重複カウン トしないこと。)	教授級 以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	参加資格の ない者 (⑩に内訳をご記入くださ い。手引き2-4参照。)	合計	第三国所属の研究者 (内数) (⑪に内訳をご記入くだ さい。)	
拠点機関	7	11	3	14	1	36	0	
協力機関・協力研究者	35	49	14	53	0	151	2	
合計	42	60	17	67	1	187	2	
⑩手引2-4記載の参加資格のない者の内訳 (適宜、行を加除。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)								
所属・職	専門分野			研究交流での役割				
日本・神戸大学医学研究 科薬理学分野・技術補佐 員 (承認番号A18-8-18Y- 11)	薬理学・神経科学			RNA-SEQを始めとした遺伝子解析技術による共同研究の遂行				
⑪「第三国所属の研究者」内訳 (5名迄。適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)								
所属機関所在国・ 所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット			日本側参加者として一体的な協力体制を 確保する方法			
オーストラリア・ University of New South Wales・Associate Professor	神経科学	神経科学およびグリア研究に精 通し、拠点における外国人客員 教授として研究を実施。			神戸大学拠点における外国人客員教授の称号付与を 行い、てんかんにおけるグリアの寄与を共同で進め ていく。神戸大学に実際に滞在して研究を進めた。 研究の進捗などはオンラインで主にミーティングを 開催した。			
オーストラリア・The Australian National University・Professor	神経科学	光学系に精通し、グリアの多点 高速刺激システムの構築を拠点 で実施。客員教授の称号を付与 され研究を実施している。			神戸大学拠点における外国人客員教授の称号付与を 行い、ホログラフィック顕微鏡によるグリアの光操 作技術の開発を進める。神戸大学に実際に滞在して 研究を進めた。研究の進捗などはオンラインで主に ミーティングを開催した。			

2. 経費

事業の型 A 型		
①当該年度の本事業による経費の支出		
経費内訳	金 額 (単位：円)	備 考
研究 交 流 経 費	国内旅費※1	1,580,850
	外国旅費※1	6,082,595
	謝金	0
	備品・消耗品購入費	2,994,501
	その他経費	1,774,424
	不課税取引・非課税取引に係る消費税 ※2	617,630
	計	13,050,000
業務委託手数料		1,305,000
合計		14,355,000
研究交流経費の10%（1円未満切捨）。消費税額は内額とする。		

※1「国内旅費」「外国旅費」の合計が、研究交流経費支出額の50%を超えていない場合、備考欄にエラーが出ます。

※2 受託機関における課税、非課税（免税）の区分に応じ対象額を算定のこと。受託機関で負担の場合はその旨、備考欄に記載すること。

②研究交流経費（総額）の30%に相当する額を超える各経費費目の増減があった場合の説明事由（該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）。

新型コロナウイルス感染症により共同研究をオンラインで協議しながら進めたため、海外旅費に約500万円の減額があり、国際共同研究の遂行のための国内シンポジウム開催等に流用した。R5年度からは現地開催をメインに国際交流を再開する予定である。

日本側 ③ 本 参 事 加 業 研 究 費 に よ る 旅 費	日本側参加研究者のうち、 所屬機関が日本である者の旅費の総額（単位：千円）		7,663		
	日本側参加研究者のうち、 所屬機関が日本以外である者の旅費の総額（単位：千円）		日本→日本以外の渡航	0	
			日本以外→日本の渡航	0	
			日本以外→日本以外の渡航	0	
（相手国） ④ （B型のみ） （本事業経費による総額） （千円未満切捨て）	日本又は相手国→日本の渡航	0	（左記のうち、 ④ （B型のみ） （本事業経費による総額） （千円未満切捨て）	日本又は相手国→日本の渡航	0
	日本又は相手国→相手国の渡航	0		日本又は相手国→相手国の渡航	0
	日本又は相手国→第三国の渡航	0		日本又は相手国→第三国の渡航	0
	第三国→日本の渡航	0		第三国→日本の渡航	0
	第三国→相手国の渡航	0		第三国→相手国の渡航	0
	第三国→第三国の渡航	0		第三国→第三国の渡航	0

※旅費は、往復の金額で記載すること（例：第三国から日本に渡航の場合、第三国→日本→第三国の往復の渡航費を「第三国→日本の渡航」の欄に記載）。

経由国がある場合は、日本側拠点機関の規定等に基づき、旅費の分類・切り分けを行い、記入すること。

⑤（B型で平成31年度採択課題のみ）中国・韓国・シンガポール・台湾側参加者の外国旅費がある場合 （交流経費の５％以内。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）		
総額（単位：千円）	手引２－６記載の要件を満たす旨の事由説明	
⑥相手国マッチングファンド(=相手国側拠点機関が本研究課題に使用した研究交流経費)（単位：千円、千円未満切捨て）		
全相手国のマッチングファンド総額 （１年間の金額）	マッチングファンドのある 相手国拠点機関数	相手国拠点機関のマッチングファンド平均額 （１年間の金額）
23,851	5	4,770

3. 共同研究・セミナー

事業の型 A 型								
①共同研究（適宜、行を加除すること。）			現在の年度に○を付けること→					
共同研究 整理番号	共同研究課題名（和文）	相手国	1年目 実施年度に ○を付ける ↓	2年目 実施年度に ○を付ける ↓	3年目 実施年度に ○を付ける ↓	A型のみ		
						4年目 実施年度に○を 付ける↓	5年目 実施年度に○を 付ける↓	
R 1	オリゴデンドロサイトの機能解析	ドイツ	○					
R 2	アストロサイト微細突起とシナプス刈り込みの解剖学的検討	カナダ・英国	○	○	○	○	○	
R 3	グリア細胞が生み出すMRI信号の特徴抽出	ドイツ	○					
R 4	マウスにおける脳卒中時の脳脊髄液－間質液交換の解析	デンマーク	○	○	○	○	○	
R 5	経頭蓋直流電気刺激（tDCS）によるグリア伝達物質放出メカニズムの解明	ドイツ・デンマーク		○	○			
R 6	てんかん病態における、細胞外K ⁺ 調節機構の破綻	ドイツ		○	○			
R 7	ミクログリアの生理機能と遺伝子発現変化を担う分子基盤	アメリカ		○	○	○	○	
R 8	ミクログリアの統合失調症における変化	カナダ・ドイツ			○	○	○	
共同研究の実施状況（当該年度実施の共同研究について、共同研究整理番号毎に、特筆すべき成果、相手国側拠点機関との主体的な取り組み及び今後の研究への波及効果、研究協力体制の構築状況等について記載すること。また、手引5－3変更事例No.2にあたる変更の場合は、変更事由も記載すること。）								
【R2・英国】年間を通して月1回程度、小泉修一氏(山梨大学)と大沼信一氏(University College London)のグループで研究打合せ会議・成果報告会をオンラインで行っている。現在論文作成を行っており、投稿を行う予定である 【R4・デンマーク】年間を通して月1回程度、毛内弘氏(学習院大学)とMaiken Nedergaard, Hajime Hlrase氏(University of Copenhagen)のグループで研究打合せ会議・成果報告会をオンラインで行っている。すでに論文作成を終了しており、成果として提出し、さらに論文作成を行っている。 【R7・米国】和氣弘明氏(神戸大学)とAnne Schaefer(Mount Sinai医科大学)で研究打合せ会議・成果報告会をオンラインで行い、共著論文の出版に至った。 【R8・ドイツ】和氣弘明氏(神戸大学)、小山隆太氏(東京大学)、Frank KIRCHHOFF氏(Saarland University)で研究打合せ会議・成果報告会をオンラインで行い、共著論文の出版に至った。 松井広氏(東北大学)との交流の一環として、東北大学博士課程最終試験の海外審査委員としてFrank KIRCHHOFF氏(Saarland University)が金谷哲平氏(東北大学)の論文審査を行った。 2022年11月14日～11月18日に竹田育子氏(名古屋大学)がAnne Schaefer氏(Max Planck Gesellschaft)を訪問。2光子顕微鏡による生体イメージング導入についての共同研究およびディスカッションを行った。								
②セミナー（当該年度開催分について、記載。適宜、行を加除すること。）								
セミナー 整理番号	セミナー名（和文）※振興会名及び本事業名を明記すること。シンボルマーク等で代用した場合、その旨コメントにて記載すること。英文も同様。	セミナー名（英文）	開催地（国名・都市名・会場名）	開催期間（○年○月○日～○年○月○日（○日間））				
S 1	日本学術振興会研究拠点形成事業第4回 国際グリア合同セミナー	JSPS Core-to-Core Program The 4nd Glial Heterogeneity SPP1757	ドイツ・Homburg・Saarland 大学	2022年10月13日～16日（4日間）				
S 2	日本学術振興会研究拠点形成事業第4回 国際グリア若手セミナー	JSPS Core-to-Core Program The 4nd Young Glia Meeting	ドイツ・Homburg・Saarland 大学	2022年10月13日～16日（4日間）				
S 3	日本学術振興会研究拠点形成事業国際シンポジウム	Development and Plasticity of the Brain	日本・三重県志摩市・Hotel&Resorts ISE-SHIMA	2022年10月21日～23日（3日間）				
S 4								
S 5								
セミナーの開催状況（当該年度開催のセミナーについて、セミナー整理番号毎に、参加者数（総数、参加国名ごとの参加人数（本事業経費による負担の有無を問わない）、交流を通じて得られた研究成果の発表・評価・とりまとめの状況、相手国とのネットワーク形成、若手の育成等の効果等について記載すること。また、手引5－3「軽微な変更の事例」の変更事項No.2にあたる変更の場合は、変更事由も記載すること。）								
【S1】参加者総数77名(内訳／日本；7名、ドイツ；62名、フランス；6名、英国；1名、スイス；1名)、本交流を通じて共同研究の進捗経過を報告するとともに、新規若手研究者のネットワーク参加について確認を行った。さらに継続的なネットワーク形成のための枠組みの再確認、およびCovid19後の交流方法について改めて確認した。また次回カナダでのセミナーで若手交流成果についての成果発表を行う旨確認をした。 【S2】参加者総数77名(内訳／日本；7名、ドイツ；62名、フランス；6名、英国；1名、スイス；1名)、うち15名(日本；1名、ドイツ；12名、フランス；2名)の若手研究者の発表を行い、相互交流および共同研究提案を主導した。 【S3】参加者総数85名(内訳／日本；63名、米国；14名、中国；3名、カナダ；2名、英国；2名、ベルギー；1名)、日本において初めて国際シンポジウムをCovid19後で開催することにより、活発な議論を行うことができた。とりわけ若手研究者22名(日本；12名、米国；7名、中国；1名、カナダ；1名、英国；1名)を参加者から選拔し、口頭発表を行わせ若手研究者間の交流促進を図った。また大学院学生(日本；11名)のポスター発表を通じて成果発表を行うとともに共同研究の推進を行った。参加者は日本に共同研究ですでに別予算で来日している研究者（米国4名、中国3名、ベルギー1名）およびオンラインでの参加（米国2名）となった。								
③当該年度に第三国でのセミナー開催があった場合の、本事業の位置づけ、第三国で開催する経済的かつ合理的な理由、そして相手国側拠点との開催経費の分担状況（セミナー整理番号毎に記入すること。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。手引2－7参照のこと。）								
該当なし								
④当該年度に開催のセミナーで、参加研究者以外の者に本事業経費を使って基調講演を依頼した場合の、日本側拠点機関にとってのメリット（セミナー整理番号毎に記入すること。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。手引3－4（1）①参照のこと。）								
該当なし								

4. 研究交流状況

事業の型 A 型 (本シートには、延べ人数で計算した人数を記入すること。)							
①日本→海外の渡航数(本事業経費による渡航) (適宜、行を加除すること。)							
国名(派遣先) 第三国は、国名の後に(第三国)と記載すること。	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち、31日以上 の渡航数(該当の場合のみ) 役職ごとの内訳も()書きで併記のこと。 記入例: 4(教授級以上1、大学院生3)
1 ドイツ	4	3	0	1	0	8	
2 米国	1	0	0	0	0	1	
3 オーストラリア(第三国)	1	0	0	0	0	1	
計	6	3	0	1	0	10	
第三国への渡航がある場合は、各渡航について、手引3-4(1)①記載の要件を(B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も)満たす旨の事由説明 (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)							
本事業成果に関わる成果発表をオーストラリア生理学会で行うため。							

②海外→日本の渡航数（本事業経費による渡航）（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）									
国名（派遣元） 第三国は、国名の後に（第三国）と記載すること。		教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2－4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち、31日以上 の渡航数（該当の場合のみ） 役職ごとの内訳も（ ）書きで併記のこと。 記入例：4（教授級以上1、大学院生3）	
1	該当なし	0	0	0	0	0	0		
計		0	0	0	0	0	0		
第三国からの渡航がある場合は、各渡航について、手引3－4（1）①記載の要件を（B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2－6記載の要件も）満たす旨の事由説明 （適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）									
該当なし									
③日本以外→日本以外の渡航数（本事業経費による渡航）（①、②の合計数の半数以下とすること。適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）									
国名（派遣元）		国名（派遣先）	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2－4記載の 参加資格のない 者・その他	合計	うち31日以上 の渡航数（該当の場合のみ）役 職ごとの内訳も（ ）書きで 併記のこと。 記入例：4（教授級以上1、大学院生3）
1	該当なし		0	0	0	0	0	0	
計			0	0	0	0	0	0	
各渡航について、手引3－4（1）①記載の要件を（B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2－6記載の要件も）満たす旨の事由説明 ※③の合計が①と②の合計の半数よりも大きくなる場合、手引2－7（3）もしくは（4）に該当するセミナー開催に伴う渡航である旨も記載すること。 （適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）									

④海外→日本の渡航数（相手国創経費による渡航）（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）							
国名（派遣元）		教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2－4記載の参加資格のない者・ その他	合計
1	米国	0	5	3	0	0	8
2	カナダ	0	2	0	0	0	2
3	英国	0	1	1	0	0	2
計		0	8	4	0	0	12

⑤日本→海外の渡航数(相手国経費による渡航) (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)						
国名(派遣先)	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の参加資格のない者・ その他	合計
1 該当なし	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0

5. 交流相手国

事業の型 A 型							
①相手国名 (和文)	カナダ						
②拠点機関名 (和文および英文)							
和文：モントリオール大学 英文：University of Montreal							
③コーディネーター所属 部局名・職名・氏名 (英文)	Department of Neuroscience ・ Professor ・ ROBITAILLE, Richard						
④協力機関名 (和文および英文) (1機関ごとに行を適宜加減し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)							
和文：ラバール大学 英文：University LAVAL							
和文：トロント大学 英文：University of Toronto							
⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級 以上	助教・准教授等	ポスドク等若手 研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者 (内数)
拠点機関	1	0	5	6	0	12	
協力機関・協力研究者	2	1	4	9	0	16	
合計	3	1	9	15	0	28	
⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加減すること。)							
所属・職名 (専門分野)		研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)					
該当なし							
⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で本事業費で旅費支給の場合のみ。)(5名迄。適宜行を加減し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)							
所属機関所在国・所属・職		専門分野	日本側拠点機関へのメリット			研究交流に不可欠な理由	
該当なし							
⑧相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (マッチングファンドの種類ごとに一行にまとめ、負担額を記載。適宜、行を加減し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)			パターン 1 または 2 をプルダウンから選択ください。 (経費負担区分が該当する相手国のみ。)		1	※参考： 日本側研究交流経費	
						13,050	
支援機関等名		ファンド・プログラム名		日本円換算額 (単位：千円)		換算レート日 (例:2021/4/12)	相手国 通貨名
Canadian Institutes of Health Research (CIHR)		Foundation Scheme		200		2023/3/7	CAD
Canadian Institutes of Health Research (CIHR) Research teams		Main Operating Grant		223		2023/3/7	CAD
Natural Sciences and Engineering Research Council (NSERC)		Discovery grants		169		2023/3/7	CAD
Canadian Institutes of Health Research (CIHR)		Foundation Scheme		223		2023/3/7	CAD
Natural Sciences and Engineering Research Council (NSERC)		Discovery grant		153		2023/3/7	CAD
		合計		968			

※日本側で独自に用意した資金 (学長裁量経費や本事業以外の資金) を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

※相手国側の学術機関独自の資金 (基盤的経費を含む) をマッチングファンドとして扱うことはできます。

5. 交流相手国

事業の型 A 型							
①相手国名 (和文)		米国					
②拠点機関名 (和文および英文)							
和文：マウントサイナイ大学 英文：Icahn School of Medicine at Mount Sinai							
③コーディネーター所属部 局名・職名・氏名 (英文)		Center of affective Neuroscience・Director・RUSSO, Scott					
④協力機関名 (和文および英文) (1機関ごとに行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)							
和文：該当なし 英文：該当なし							
⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級 以上	助教・准教授等	ポスドク等若手 研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者 (内数)
拠点機関	3	2	2	3	0	10	
協力機関・協力研究者	0	0	0	0	0	0	
合計	3	2	2	3	0	10	
⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)							
所属・職名 (専門分野)		研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)					
該当なし							
⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で本事業費で旅費支給の場合のみ。) (5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)							
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット				研究交流に不可欠な理由	
該当なし							
⑧相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (マッチングファンドの種類ごとに一行にまとめ、負担額を記載。適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		パターン 1 または 2 をプルダウンから選択ください。 (経費負担区分が該当する相手国のみの。)		1		※参考： 日本側研究交流経費 13,050	
支援機関等名	ファンド・プログラム名		日本円換算額 (単位：千円)		換算レート日 (例:2021/4/12)	相手国 通貨名	換算レート (外貨1 単位に 相当する円貨額)
Icahn School of Medicine at Mount Sinai	Mindich Child Health and Development Institute & Department of Psychiatry Seed Fund		3,540		2023/3/7	USD	136
Icahn School of Medicine at Mount Sinai	Mindich Child Health and Development Institute		3,460		2023/3/7	USD	136
合計			7,000				

※日本側で独自に用意した資金 (学長裁量経費や本事業以外の資金) を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

※相手国側の学術機関独自の資金 (基盤的経費を含む) をマッチングファンドとして扱うことはできます。

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名 (和文)	デンマーク
②拠点機関名 (和文および英文)	
和文：コペンハーゲン大学 英文：University of Copenhagen	
③コーディネーター所 属部局名・職名・氏名 (英文)	Section for Translational Neuroscience・Professor・NEDERGAARD, Maiken
④協力機関名 (和文および英文) (1機関ごとに行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級 以上	助教・准教授等	ポスドク等若手 研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者 (内数)
拠点機関	2	0	2	4	1	9	
協力機関・協力研究者	0	0	0	0	0	0	
合計	2	0	2	4	1	9	

⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)	
所属・職名 (専門分野)	研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
コペンハーゲン大学・テクニカルスタッフ (承認番号A18-8-18Y-15) (神経科学)	

⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で本事業費で旅費支給の場合のみ。)(5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (マッチングファンドの種類ごとに一行にまとめ、負担額を記載。適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		パターン1または2をプルダウンから選択ください。 (経費負担区分が該当する相手国のみ。)	1	※参考： 日本側研究交流経費		13,050
支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位：千円)	換算レート日 (例:2021/4/12)	相手国 通貨名	換算レート (外貨1 単位に 相当する円貨額)	
Novo Nordisk Foundation	Project Grants in Bioscience and Biomedicine 2019	810	2023/3/7	DKK	20	
NIH/NINDS/NIA	NIH supported research funds	3,113	2023/3/7	USD	136	
NIH/NIA	NIH supported research funds	1,035	2023/3/7	USD	136	
NIH	NIH supported research funds	2,317	2023/3/7	USD	136	
	合計	7,275				

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。
※相手国側の学術機関独自の資金(基盤的経費を含む)をマッチングファンドとして扱うことはできません。

5. 交流相手国

事業の型 A 型								
①相手国名 (和文)	ドイツ							
②拠点機関名 (和文および英文)								
和文：ザールランド大学 英文：Saarland University								
③コーディネーター所属 部署局名・職名・氏名 (英文)	Molecular Physiology・Professor・KIRCHHOFF, Frank							
④協力機関名 (和文および英文) (1機関ごとに行を適宜加減し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)								
和文：エアランゲン・ニュルンベルグ大学 英文：Friedrich-Alexander University of Erlangen-Nurnberg								
和文：ルートヴィヒ・マクシミリアン大学 英文：Ludwig-Maximilians University Munchen								
和文：ボン医科大学 英文：University of Bonn Medical Center								
和文：ライプツィヒ大学 英文：University of Leipzig								
和文：ハインリッヒ・ハイネ大学 英文：Heinrich Heine University								
⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級 以上	助教・准教授等	ポスドク等若手 研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者 (内数)	
拠点機関	2	0	6	9	0	17		
協力機関・協力研究者	24	0	0	2	0	26		
合計	26	0	6	11	0	43		
⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加減すること。)								
所属・職名 (専門分野)		研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)						
該当なし								
⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で本事業費で旅費支給の場合のみ。)(5名迄。適宜行を加減し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)								
所属機関所在国・所属・職		専門分野	日本側拠点機関へのメリット			研究交流に不可欠な理由		
該当なし								
⑧相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (マッチングファンドの種類ごとに一行にまとめ、負担額を記載。適宜、行を加減し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)				パターン1または2をプルダウンから選択ください。 (経費負担区分が該当する相手国のみ。)		1	※参考： 日本側研究交流経費 13,050	
支援機関等名		ファンド・プログラム名		日本円換算額 (単位：千円)		換算レート日 (例:2021/4/12)	相手国 通貨名	換算レート (外貨1単位に 相当する円貨額)
Deutsche Forschungsgemeinschaft (DFG)		SPP 1757 "Heterogeneity of glial cells", Koordinator-Funds		4,828		2020/2/20	EUR	145
		合計		4,828				

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

※相手国側の学術機関独自の資金(基盤的経費を含む)をマッチングファンドとして扱うことはできます。

5. 交流相手国

事業の型 A 型								
①相手国名 (和文)	英国							
②拠点機関名 (和文および英文)								
和文：ロンドン大学 英文：University College London								
③コーディネーター所属部局名・職名・氏名 (英文)	Institute of Ophthalmology Faculty of Brain Sciences・Professor・Shin-Ichi Ohnuma							
④協力機関名 (和文および英文) (1機関ごとに1行を適宜加減し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)								
和文：該当なし 英文：該当なし								
⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者 (内数)	
拠点機関	1	0	0	2	0	3		
協力機関・協力研究者	0	0	0	0	0	0		
合計	1	0	0	2	0	3		
⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加減すること。)								
所属・職名 (専門分野)		研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)						
該当なし								
⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で本事業費で旅費支給の場合のみ。)(5名迄。適宜行を加減し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)								
所属機関所在国・所属・職		専門分野		日本側拠点機関へのメリット		研究交流に不可欠な理由		
該当なし								
⑧相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (マッチングファンドの種類ごとに一行にまとめ、負担額を記載。適宜、行を加減し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)				パターン1または2をブルダウンから選択ください。 (経費負担区分が該当する相手国のみ。)		1	※参考： 日本側研究交流経費	
							13,050	
支援機関等名		ファンド・プログラム名		日本円換算額 (単位：千円)		換算レート日 (例:2021/4/12)	相手国通貨名	換算レート (外貨1単位に相当する円貨額)
MEC		IDENTIFICATION AND CHARACTERISATION OF NOVEL GENES THAT INFLUENCE PROGRESSION AND MALIGNANCY OF REPINOBLASTOMA		1,890		2020/2/20	GBP	164
SenSyT-Santen		Single cell analysis for understanding progression of retinal diseases and Identification of target cells for their treatments Single cell analysis for understanding progression of retinal diseases and Identification of target cells for their treatments		1,890		2020/2/20	GBP	164
		合計		3,780				

※日本側で独自に用意した資金 (学長裁量経費や本事業以外の資金) を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

※相手国側の学術機関独自の資金 (基盤的経費を含む) をマッチングファンドとして扱うことはできません。